

1 はじめに

広浦小学校の4年生の教室からは涸沼をながめることができます。わたしたちにとって涸沼は、ごく当たり前の存在なのです。しじみの生産地として有名な涸沼ですが、東日本大震災のあとは、しじみの漁獲量が減ってしまったようです。わたしたち4年生は、「自然豊かなきれいな涸沼にしたい」と考え、学校全体や児童会活動で、また4年生の総合的な学習の時間において、どんな活動ができるかを考え、実践しています。



2 総合的な学習の時間での取り組み

(1) ヤマトシジミの稚貝放流体験（平成25年11月15日）

茨城県内水面水産試験場、大涸沼漁業協同組合の方々のご協力で、シジミの稚貝放流をさせていただきました。ここで、シジミには浄化作用があるということも教えてもらいました。涸沼の水もシジミによって浄化されることが分かりました。

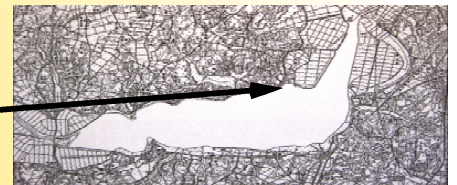


(2) 涸沼の水質検査（平成25年7月17日、12月19日）

涸沼の水質について、中石崎宮前地区と広浦港付近の2箇所でパックテストを行いCOD値（化学的酸素要求量）を調べました。

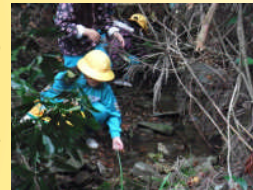


(COD値)	気温	中石崎宮前地区	広浦港
7月17日	28℃	13・少し緑色	13・少し緑色
12月19日	8℃	5・透明に近い	5・透明に近い



(3) 涸沼川探検（平成25年12月15日）

霞ヶ浦環境科学センター、涸沼ネットワークの先生方のご協力により、涸沼環境学習として涸沼川探検活動をしました。涸沼の水がどこから来てどこへ行くのか、涸沼川源流から上流・中流・下流、そして河口までをたどり、「水のすこやかさ」を調査しました。「水のすこやかさ」の観察では、「自然なすがた」「ゆたかないきもの」「水のきれいさ」など5項目について調べました。



3 涸沼の環境を守る取り組み

(1) EMダンゴ・EM活性液の投入（平成25年7月15日）

茨城町さわやかエコの会主催の「全国一斉海・湖沼・河川等にEMダンゴやEM活性液を投入して自然環境の再生プロジェクトをやる作戦」が海の日に広浦漁港で行われました。広浦小学校からは、4年生を中心とした児童20名と家の人、先生が参加し、地元の方々とともに涸沼にEMダンゴを投げ入れたり、EM活性液を流し入れたりしました。



(2) 涸沼浄化キャンペーン歩く会（平成25年9月28日）

創立以来、伝統行事として毎年行っている「ごみ拾い活動」です。今年度は、低学年（1～3年生）2コースと高学年（4～6年生）2コースに分かれ、広浦小学校から広浦秋の月まで歩きました。参加者は、わたしたち小学生、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、地区の高年者の方々、そしてライオンズクラブの方々で、およそ120人でした。

通学路になっている道路脇にはあまりゴミはありませんでしたが、交通量の多い道路脇、広浦公園や広浦港などの人が集まるところには、ゴミが多く見られました。



4 まとめ

ヤマトシジミやシラウオなど豊かな恵みをもたらしてくれる涸沼、そして、夕焼けに染まる美しい景観を見せてくれる涸沼は、昔は「常陸の国の天の橋立」とも言われたそうです。涸沼の水が昔とはちがってしまったことを、わたしたちは反省しなければならぬと感じます。昔のような水のきれいな涸沼にしていくためには、みんなが自然を大切にすることをもち、涸沼をきれいにしていくための努力を続けていくことが大切だと思います。そして、より多くの方々に涸沼に親しんでいただくとともに、自然豊かなきれいな涸沼をみんなで力を合わせてつくっていきましょうと思います。

